

基礎教育科目の科目概要(2) ー外国語、保健体育、情報処理ー

科目区分	科目名	科目概要
外国語	英語 I	英語の基礎・基本力固めに照準を合わせ、英語を理解するための道具である「英文法」を英語圏文化の諸相を語る様々なエッセイの読解と関連する演習問題を通して英語運用力を向上させ、英語文化の基礎知識を身につけさせることをねらいとする。①各自事前学修時に関わる聴解作業成果の確認。②基本的文法構造の実践演習成果の確認。③英文テキストの読解作業及び応用課題実践演習成果の確認。これら一連の学修・演習を通して、毎講義時間内に取り扱う英語素材の内容理解を深める。
	英語 II	基礎的な英語のリーディングの知識を確認しながら、比較的平易な英語で書かれた日常的なテーマに関する文章を読み、単語力強化から運用能力の増強、英語による表現力の鍛錬に至るまで「自分が使える英語」を身につけることを目的とする。授業においては、文法事項の確認をしながらボキャブラリー強化とその運用練習、さらには誤文添削の課題等により学修内容の定着を図る。また、日常生活をテーマにした作文をするなど、適宜実力強化の機会を設ける。また、授業は質疑応答を通して実践力を養う。
	英語コミュニケーション I	All students have studied English for many years. One main aim of this course is to help students remember and produce that English in easy situations which deal with everyday conversations and scenarios. Classes will be largely practical. Students will practice Q&A patterns, conversations and role-playing. Students will be tested both individually and in small groups. 長年学んできた英語を実用的なものにするため、本授業では、日常会話や日常のありふれた場面で使える英語を学ぶとともに、容易に英語を使えるようにすることを主目的とする。授業内容は実用的なものになり、具体的には、Q&Aによるパターン練習、学生同士での会話やロールプレイを行う。なお、テストについては、個人別での評価と小グループでの評価の両方を行う。
	英語コミュニケーション II	This course will cover two main aspects of English: 1) Everyday English conversation and 2) Teaching English to children. An important addition is the focus on non-verbal methods of communication in order to clarify verbal communication. この授業では、主に2つの側面からのアプローチをとる。一つは、英語による日常的会話の訓練、そして2点目は、子どもにも英語を教えられるようなスキルを身につけることである。ことばによってたしかかなコミュニケーションをとるためには、ことば以外によるノンバーバルなコミュニケーション方法が必要であることを十分意識しながら授業を進める。
	韓国語 I	初修外国語として韓国語を学ぶ。韓国固有の文字ハングルの特徴を理解し、その発音や書き方について学ぶ。最初はハングルの基本文字を覚え、読み書きできるように繰り返し練習を行う。文字に慣れてきたら、韓国語で自己紹介やあいさつなど簡単な会話を練習するとともに、様々な韓国の文化や習慣などを取り上げ、韓国理解を深める。
	韓国語 II	「韓国語 I」の既習内容を基礎力に、基本的な会話を通して話しことばによるコミュニケーションの力がつくように学修する。中でも日常生活でよく使われる表現(数字、日付、曜日、時間、値段など)を覚え、これらを中心に身近なことや言いたいことを組み合わせる。また、韓国事情にもできるだけ触れ、韓国に対する理解を深める。
	中国語 I	中国語の基礎を身につけることを目標とする。まず中国語の発音の仕組み、四声、母音、子音を丁寧に学習した上で、基礎的な単語、文法、会話の学習へと進む。聞く、話す、読む、書くの4つの技能をバランスよく融合して修得できるよう練習を繰り返し、簡単な挨拶、自己紹介、簡単な日常会話ができるようにする。
	中国語 II	「中国語 I」を履修した学生を対象として、「中国語 I」よりやや難易度の高い基本的な単語、文法事項、短い文章、日常会話を学修する。聞く、話す、読む、書くの4つの技能をバランスよく融合して修得できるよう練習を繰り返し、より長い会話ができ、短文が読めて、簡単な翻訳ができるよう目指す。「中国語 I」に続けて一年間学修すると、中国語検定試験4級程度の実力を身につける。
	フランス語 I	初修外国語としてフランス語を学ぶ。初級フランス語の基本事項を身につけることをめざす。テキストに描かれる様々な場面や状況での会話を段階的に覚える。発音や文法知識の修得を中心しつつフランスの歴史や文化、生活習慣についても学び、異なる文化や社会、多様な価値観を理解する力を養う。また、新しい知識を獲得していく際に必要な学びの基礎力を培うことも目的とする。
フランス語 II	「フランス語 I」と同様のテキストに描かれる様々な状況での会話を覚えることを通して、フランス語の基礎力の完成をめざす。発音、文法知識の修得を中心としながら、フランスの歴史や文化、生活習慣についても学び、異なる文化や社会、多様な価値観を理解する力を養う。また新しい知識を獲得していく際に必要とされる、学びの基礎力を培うことも目的とする。	
保健体育	スポーツサイエンス I	健康の維持増進やスポーツに関する知識・技能の修得と、学生が運動に親しむことを目指す。生涯にわたる健康についての知識と様々なスポーツについてのルールや運動特性、基本技術、ゲームの運営方法について学び、生涯スポーツの基礎となる知識、技能の修得を目指す。「健康」に関する各テーマについては、二人組やグループでの学び合い学修で授業を行っていく。「スポーツ」に関する各テーマに関しては、学生が主体的・協同的な学びの中で授業を進める。

	スポーツサイエンスⅡ	生涯にわたる健康についての知識を学ぶとともに、様々なスポーツ種目を通じて、それぞれのルールと運動特性、基本技術、ゲームの運営方法について学び、生涯スポーツの基礎となる知識、技能の修得を目指す。「健康」に関する各テーマについては、二人組やグループでの学び合い学修で授業を行っていく。「スポーツ」に関する各テーマについては、学生が主体的・協同的な学びの中で授業を進める。
情報処理	コンピュータ基礎演習	大学における学修活動や社会での活動に必要な基盤的情報技術を演習を通して修得する。前半は、文書処理技術を扱う。各種編集機能・作表機能を用い、社会でやり取りする文書・通常のレポート作成がスムーズに行えることを目指す。後半は、表計算ソフトを用いた数値処理を扱う。基本的な計算処理にとどめず、コンピュータで数値を扱う上での注意点を端数処理を通して学んだり、複雑な処理を行うために必要な条件分岐の活用を修得する。
	情報倫理	インターネットとスマートフォンの普及によって、著作権やプライバシー、個人情報などへの理解と配慮が求められる社会になっている。この科目では、実際におこった事件や事故を例にこれらの問題について考えるとともに、自己を理解し他者の考えや立場も尊重しながら主体的に行動する力を養う。例えば、プライバシーだけを尊重する状況は表現の自由を損なう可能性が高い。このような、自身の権利と他者の権利の衝突が発生する状況において、より良い妥協点を考えていくことがこの科目の目的である。
	情報検索	ググるという言葉が一般化したことから分かるように、現在は知りたいことをWebで検索することが日常化している。この背景には、情報検索において、検索者の障壁になっていた点のサポート機能をGoogleが充実させた点がある。この科目では、そもそも情報検索とはどのようなものなのか、そして当初の情報検索にはどのような問題があったのかを学ぶとともに、Googleが実現させたサポート機能について学ぶ。
	情報処理演習Ⅰ	大学における学修活動や社会での活動に活用できる応用的な情報技術を演習を通して修得する。前半は、画像処理と文書処理技術を扱う。特に、画像を利用した情報量の多い文書の作成や論文など長文の編集技術を修得する。後半は、表計算ソフトを用いた数値処理を扱う。複数の表を連携させリレーショナルデータベースに扱う技術や様々な条件下で計算を行う技術を修得し、複雑な計算処理が行えることを目指す。
	情報処理演習Ⅱ	大学における学修活動や社会での活動に活用できる情報の分析・評価の方法について学ぶ。身の回りには、数であらわされる数値データや文字であらわされるテキストデータがあふれている。本授業では、このようなデータから法則を見出す術について学ぶ。数値データの処理については、数値データが何を意味しているのかという統計の基礎を学ぶとともに、アンケート作成演習や表計算ソフトを用いた表データの収集・分析・評価を行う。テキストデータの処理については、テキストマイニングを学ぶ。
	情報処理演習Ⅲ	より高度で効率的な情報処理技術を修得するためプログラミング技術を演習を通して学修する。主流であるオブジェクト指向プログラミングに対応するため表計算ソフト上で演習を行う。基本的なアルゴリズムを学修したのち、表計算処理をより活用できるような実用的プログラムの作成を演習する。さらに、表計算内にとどまらず画像等の操作も可能なように発展させる。
	ネットワーク応用演習	情報処理の応用的な技術のうち、現代的なウェブサイト構築に必要な不可欠な「CSS（カスケードデザイン・スタイルシート）」を用いたウェブデザインの基礎を学ぶとともに、CSSの前提となる「構造化されたHTML」についても学ぶ。授業内容は、まずHTMLの基礎を学び、その後既存ページのデザインのカスタマイズを通して、CSSによるデザイン手法を修得していく。最終的には授業で学んだCSSの知識を活かした独自の小規模ウェブサイトを完成させることを目標とする。
	情報機器演習	現在の生活では、パソコンやスマートフォンなどの情報機器が欠かせないものになっている。この科目ではこれらの情報機器について、ハードウェア面での知識について学ぶとともに、デジタルカメラの撮影方法についても学ぶ。授業内容としては、まず情報のデジタル化について学び、その後パソコン、スマートフォン、デジタルカメラの仕組みなどについて学び、デジタルカメラの学びについては、構図などの撮影に必要な知識についても学ぶ。